

**平成 26 年度**

**社会福祉法人豊富台福社会**

**事業計画書**

# I 法人本部

## 1. 所在地

兵庫県姫路市豊富町御陰 3 2 7 8 番地の 5 7

## 2. 法人事業の経営理念

多様な福祉サービスが、その利用者の意向を尊重して、総合的に提供されるよう創意工夫する事により、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成されるよう支援する。

## 3. 経営方針

### (1) 経営基盤の強化

社会福祉事業や公益的な事業への自主的な取組について、責任を持って実施できる管理経営体制を構築する。

### (2) 福祉サービスの質の向上

職員が専門的知識や技術を修得できるように法人内・外部での研修等を推進する。

### (3) 事業経営の透明性の確保

法人内で実施されているサービス内容や経営内容などの情報についての透明性の確保に努める。

## 4. 実施事業

### (1) 第二種社会福祉事業

#### ① 保育所の経営

- 豊富台保育園（定員 60 名）  
所在地 兵庫県姫路市豊富町御陰 3278 番地の 57
- 寺前保育所（定員 50 名）  
所在地 兵庫県神崎郡神河町寺前 396 番地
- このみ保育園（定員 70 名）  
所在地 兵庫県神戸市北区山田町下谷上字箕谷 21 番地の 1

#### ② 一時預かり事業の経営

- 豊富台保育園 所在地 兵庫県姫路市豊富町御陰 3278 番地の 57
- 寺前保育所 所在地 兵庫県神崎郡神河町寺前 396 番地
- このみ保育園 所在地 兵庫県神戸市北区山田町下谷上字箕谷 21 番地の 1

## 5. 理事会の開催

### (1) 第 1 回理事会（5 月）

- ① 前年度事業報告及び決算報告の審議、その他

- (2) 第2回理事会（10月）
  - ① 指導監査実施報告、その他
- (3) 第3回理事会（11月）
  - ① 補正予算審議、その他
- (4) 第4回理事会（3月）
  - ① 次年度事業計画及び当初予算の審議、その他
- (5) 臨時理事会（随時）
  - ① 審議の必要に応じ随時開催

## 6. 構成

- (1) 理事6名（理事長含む）
- (2) 監事2名

## 7. 中・長期計画

- (1) 地域の社会福祉ニーズに対応した事業実施
  - ① 新規地域子育て支援事業の実施
  - ② 他地域での保育所新規開設
  - ③ 他社会福祉事業開設
- (2) 適正な経営及び財務と透明性の確保
  - ① 外部監査実施（平成27年度）
- (3) 保育の質の向上と透明性の確保
  - ① 第三者評価受審（平成27年度：豊富台保育園）（平成27年度：寺前保育所）（平成28年度：このみ保育園）
- (4) 組織の活性化
  - ① 人事考課導入
  - ② 職務職階に応じた研修計画の策定

## Ⅱ 豊富台保育園

### 1. 保育理念

共に汗を流し、共に学び、共に喜ぶ。

園において職員こそが、子どもたちの最大の環境と考え、園と家庭との共通認識のもとに、大人が手本となり、一緒に実行する生活の積み重ねをもって、人に対する愛情と信頼感、そして生きる喜びと困難に立ち向かう力を育てるとともに自主、協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培う。

### 2. 保育目標 (親、子、職員共に目指す人柄)

- (1) 人に迷惑をかけない人  
(自分のことは自分でできる自主性を持った人)
- (2) 人に親切にできる人  
(自分の余力を人のために使う人)
- (3) 自分からする人  
(主体的に行動し、自分の力を発揮する人)

### 3. 園児習得目標 (調和のとれた人柄の土台作り)

- (1) あいさつは自分から先にする  
(明るい人間関係を開く土台)
- (2) 返事は「はい」とはっきりとする  
(素直な行動が身につく土台)
- (3) 履物をそろえよう、いすを入れる  
(行動に責任を持つ、けじめの土台)

#### 4. 保育方針

- (1) 保育所では子どもが充分遊びきれ環境を作り、援助していくことで自主性や積極性を育て心の成長を促す。
- (2) 子ども同士がお互いに生き生きと育ち合うための、仲間とのつながりを考えながら、保育者同士のさまざまな配慮や援助の方法を考えていく。
- (3) 子どもを取り巻く自然や社会の中で、子どもたちの感動や驚き、興味や好奇心を引き出し、感性の幅を広げ、質を高めていく。
- (4) 子ども自身の「からだ」をとおして、体験的に物事を確かめることを大切にする保育内容を創造していく。
- (5) 保育所と家庭が連携し、子どもたちの「食」に関する望ましい基本的生活習慣の確立に向け取り組んでいく。
- (6) 一人一人が体作りの基礎である生活習慣を整えることの重要性をより深く認識しながら、生活リズムの確立に向けた取り組みを進める。
- (7) 安心して甘えられ、愛される関係、自分の思っていることが言え、人のことも聞ける、そんな「しなやかさ」を育てるために保育の内容として「わらべうた」や「遊び」を重視していく。
- (8) 保育所における活動の組み立てに当たっては、自然環境との出会いを大切に、工夫して保育の内容に自然を取り込むようにしていく。
- (9) 子どもたちが遊びをとおし、子どもを取り巻くさまざまなものや事象と向き合って体ごとぶつかり、生き生きとした豊かな生活ができるための環境を作り、生きた言葉が育てられる取り組みを進めていく。
- (10) 子どもたちが絵本やお話から培うイメージする力や工夫する力、物事を考える力が「生きる力」につながると考えていく。
- (11) 一人一人の思いや考えを充分受け止め、認めながら、個々の子どもには感じかたや考えかたの相違があることを知らせたり、認識させたりしていくような環境づくりや援助を大切にしていく。
- (12) 子どもたちの現状を知り、子どもの置かれている状況を理解し、また、保護者が自らを語る中に込められた願いを受け止め、保育課題として実現する。

## 5. 平成 26 年度の重点項目

- (1) 特別保育事業の積極実施、内容の充実
- (2) 保育指針に基づいた保育の展開
- (3) 苦情解決処理への積極的な取り組み
- (4) 地域交流事業の推進

## 6. 特別保育事業

- (1) 延長保育事業
- (2) 一時預かり事業

## 7. 地域交流事業

- (1) 世代間交流事業
  - ① 地域の高齢者や小学生との交流（年 1 回）
- (2) 地域子育て支援事業（自主事業）
  - ① 園庭開放
  - ② 貸し出し絵本
  - ③ 子育てサークル活動支援
- (3) ボランティア、就業体験受け入れ事業
  - ① 保育士養成機関実習生受け入れ（最低 2 名受け入れ）
  - ② 就業体験高校生受け入れ
  - ③ トライやるウィーク中学生受け入れ（最低 1 校受け入れ）

## 8. 職員構成

職種	正規職員	契約職員
施設長	1名	
保育士	5名	3名
調理員		3名
嘱託医（非常勤）		1名
嘱託歯科医（非常勤）		1名
計	6名	8名（非常勤2名）

## 9. クラス編成（平成26年3月20日現在）

クラス名	年齢	児童数	保育士数	備考
たんぽぽ	0歳児	1名	1名	
さくら	1歳児	3名	1名	
さくら	2歳児	8名	2名	
すみれ	3歳児	9名	1名	
ばら	4歳児	17名	1名	
ひまわり	5歳児	8名	1名	
フリー			1名	
計		46名	8名	

## 10. 健康管理

- (1) 健康診断  
年 2 回（4 月・11 月）
- (2) 歯科検診  
年 1 回（6 月）
- (3) 身体測定  
毎月

## 11. 衛生管理

- (1) 感染症対応マニュアルに基づいた対応とマニュアルの見直しを定期的に行う。

## 12. 安全管理

- (1) 交通安全指導  
年 1 回（9 月）
- (2) 避難訓練  
非常災害対策訓練年間計画表に沿って実施（毎月）

## 13. 食に対する取組

- (1) アレルギー対応の実施
- (2) 年間食育計画に基づいた取組の実施
- (3) 授乳・離乳の支援ガイドを基本とした離乳食
- (4) 給食衛生管理マニュアルに基づいた対応

## 14. 苦情処理

- (1) 苦情への適切な対応により、保育サービスに対する利用者の満足感を高めると共に、利用者が保育サービスを適切に利用する事が出来るように支援する事と、苦情を密室化せず社会性や客観性を確保し、一定のルールに沿った方法で解決を進めることにより、円滑・円満な解決の促進や当園の信頼と適正性を図る為に苦情解決規程を設けて、お知らせ、ポスター、ホームページなどで周知する

## 15. 情報公開

- (1) よい子ネットの定期更新およびホームページの開設  
実施されているサービス内容や経営内容などの情報について、透明性の確保に努める。

## 16. 行事予定

4月	入園式 健康診断
5月	歓迎遠足 お相撲大会 健康診断
6月	トライやるウィーク受け入れ 歯科検診
7月	プール開き お泊り保育
8月	夕涼み会
9月	交通安全教室
10月	運動会 芋掘り遠足
11月	健康診断 保育参観
12月	サンタ列車 クリスマス会
1月	カルタ大会 お餅つき とんど
2月	節分 豆まき 春を待つ音楽会
3月	新入園児説明会 お別れ遠足 卒園式

月例行事 遠足 おたんじょう会

## 17. 研修計画

保育士等には、自分自身の資質の向上を意識し、業務に必要な基本知識や技能を高め、専門性を高める意識を持ち、研修で学んだことを日々の保育活動に生かしていく必要がある。

保育士等に求められる人間性と専門性について、次の3つの視点を挙げる。

### (1) 子どもたちの育ちを援助する力を身に付ける。

保育士等の意図を優先し、子どもたちに対して、一方的に自分自身の考えを押し付けたり、働きかけたりするのではなく、保育の中心は、子どもが主体であるという認識のもと、子どもの思い（心に寄り添うこと）を感じ取ることが大切である。

援助の方法は、子ども一人ひとりの状態や状況によって違う。

常に、その時々保育士等は、子ども自身が自ら、自分の課題を乗り越えていくことの出来るよう、援助を行うことが必要だと考える。

### (2) 保育士等が豊かな人間性を身に付ける。

子どもの理解や受容は決して一方的なものではなく、保育士等の心と子どもの心の相互的な営みであると考え。

子どもの気持ちを受け止めようと、保育士等が一人の人間として、子どもと関わる時、子どもたちは、それを感じ取り、心を開き、自分らしさを表現する。この関係こそが、互いの信頼関係を生み出す基盤となると考える。

### (3) モデルとしての保育士等

保育士等が自覚しなければならないことは、自分の持つ文化や価値観の枠組みを、保育の場において、意図的、または無意識のうちに、子どもに示しているということである。その時、常に保育士等は、この枠組みや価値観を絶対視することなく、いつも柔軟な姿勢で見直し続ける必要があると考える。

子どもに自分の価値観を押し付けるのではなく、子ども自身が主体的に、それを取り入れたり、乗り越えて行けるようにすることが大切だと考える。

これらの視点から、平成26年度は以下の目的による研修を実施する。

- ① 専門性を高める研修（随時）  
（保育に必要な基本的知識及び実践力の向上に繋がる研修と、多様なニーズに対応するための研修）
- ② 自己課題を解決・達成する研修（随時）  
（一人ひとりの子どもの持つ課題に対して、どのように援助を行うのか、資質向上の研修）
- ③ ライフステージに応じた研修（随時）  
（年齢や、経験に応じた立場や役割を認識し、職務を遂行するために資質、指導力の向上を図る研修）

- ④ カウンセリングマインドを高める研修（随時）  
（保護者や、子ども一人ひとりの声に傾聴し、受容し、相互の信頼関係の確立を基本として、相談者の自立を援助するためのカウンセリングマインドを身に付ける研修）
- ⑤ 保・幼・小の連携を促進する研修（随時）  
（それぞれの地域の実情や、子どもたちの実態に応じ、子どもたちを中心に据えた実践研修）
- ⑥ 子育て支援者としての役割に関する研修（随時）  
（子育ての知識、経験、技術を蓄積している保育者が、地域における子育て支援の役割を積極的に担う研修）

## 18. 委員会活動

### (1) 食育委員会

子どもたちが、食べることに興味を示して、みんなで一緒に楽しく給食の時間を過ごせるように取り組む。

### (2) 絵本委員会

絵本からイメージする力や工夫する力、物事を考える力が「生きる力」につながると考え、保育園以外の子どもたちも利用出来る、貸し出し絵本を行う。

### (1) 環境委員会

保育環境の整備、向上とともに、施設内外の設備及び用具等の衛生に注意し、活動する。

### (2) 保健衛生委員会

子どもたち及び職員の安全及び健康の確保のために施設内外の保健的環境の維持及び向上に努める

### (3) おもちゃ委員会

おもちゃで遊ぶことは、子どもたちが成長していくうえで大変、重要な意義をもっていると考え、子どもたちと一緒に、おもちゃで遊んだり、おもちゃを作る楽しみや喜びを伝えていく。

## 19. 職員会議

### (1) 定例会議（毎月）

## 20. 福利厚生

### (1) 職員健康診断（年2回）

### (2) 細菌検査（調理担当のみ）（毎月）

- (3) 親睦旅行（年1回）
- (4) 福利厚生センター加入
- (5) 福祉医療機構退職共済加入

## Ⅲ 寺前保育所

### 1. 運営方針

- (1) 運営に当たっては、子ども、保護者の方々の立場に立ち、神河町立寺前保育所が実施してきた方針や使用してきた名称などを継承しつつ、より良い保育を目指す。
- (2) 子どもたちが1日の生活の大半を保育所で過ごすことから、安全の確保、健康の保持及び衛生の保持などについて細心の注意を払う。
- (3) 定期的（3年に一度）に第三者評価を受審することで保育の質の向上を図る。
- (4) 保育所内では政治・宗教に係る活動などは一切、行わない。
- (5) 関係機関との連携・協力を努める。
- (6) 保育内容などの情報開示に努める。
- (7) 保育所運営にあたり、地域の自治会、近隣住民の方々と十分な意見調整を行う。
- (8) 保育所の運営状況や財務状況を必要に応じて、保護者の方々に説明する。
- (9) 法人として定期的（5年に一度）に外部会計監査を実施することで、より適正な経営管理、財務管理を行い、施設運営の透明性を高める。

## 2. 保育理念

**共に汗を流し、共に学び、共に喜ぶ。**

園において職員こそが、子どもたちの最大の環境と考え、園と家庭との共通認識のもとに、大人が手本となり、一緒に実行する生活の積み重ねをもって、人に対する愛情と信頼感、そして生きる喜びと困難に立ち向かう力を育てるとともに自主、協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培う。

## 3. 保育目標 （親、子、職員共に目指す人柄）

- (1) 人に迷惑をかけない人  
（自分のことは自分でできる自主性を持った人）
- (2) 人に親切にできる人  
（自分の余力を人のために使う人）
- (3) 自分からする人  
（主体的に行動し、自分の力を発揮する人）

#### 4. 保育方針

- (1) 保育所では子どもが充分遊びきれ環境を作り、援助していくことで自主性や積極性を育て心の成長を促す。
- (2) 子ども同士がお互いに生き生きと育ち合うための、仲間とのつながりを考えながら、保育者同士のさまざまな配慮や援助の方法を考えていく。
- (3) 子どもを取り巻く自然や社会の中で、子どもたちの感動や驚き、興味や好奇心を引き出し、感性の幅を広げ、質を高めていく。
- (4) 子ども自身の「からだ」とおして、体験的に物事を確かめることを大切にする保育内容を創造していく。
- (5) 保育所と家庭が連携し、子どもたちの「食」に関する望ましい基本的生活習慣の確立に向け取り組んでいく。
- (6) 一人一人が体作りの基礎である生活習慣を整えることの重要性をより深く認識しながら、生活リズムの確立に向けた取り組みを進める。
- (7) 安心して甘えられ、愛される関係、自分の思っていることが言え、人のことも聞ける、そんな「しなやかさ」を育てるために保育の内容として「わらべうた」や「遊び」を重視していく。
- (8) 保育所における活動の組み立てに当たっては、自然環境との出会いを大切にし、工夫して保育の内容に自然を取り込むようにしていく。
- (9) 子どもたちが遊びをとおし、子どもを取り巻くさまざまなものや事象と向き合って体ごとぶつかり、生き生きとした豊かな生活ができるための環境を作り、生きた言葉が育てられる取り組みを進めていく。
- (10) 子どもたちが絵本やお話から培うイメージする力や工夫する力、物事を考える力が「生きる力」につながると考えていく。
- (11) 一人一人の思いや考えを充分受け止め、認めながら、個々の子どもには感じかたや考えかたの相違があることを知らせたり、認識させたりしていくような環境づくりや援助を大切にしていく。
- (12) 子どもたちの現状を知り、子どもの置かれている状況を理解し、また、保護者が自らを語る中に込められた願いを受け止め、保育課題として実現する。

## 5. 平成 26 年度の重点項目

### (1) 保育内容の継承

- ① 保育所保育指針を基本とし、寺前保育所の先生方が大切にしてきた保育内容を継承していく。
- ② 兵庫県人権教育基本方針を尊重し、それぞれの子どもの最善の利益を考慮した保育を行う。

### (2) 保護者意見の反映

- ① 保護者会の活動を積極的に支援していく。
- ② 保護者からの意見・要望などについては実現に努めるとともに、実現の可否に係わらず、その対応について説明を行う。
- ③ 行事ごとに保護者の方々を対象としたアンケート調査を実施し、その結果を保護者の方々に報告する。

### (3) 給食に対する取組

- ① 年間食育計画に基づいた取組の実施
- ② アレルギー対応の実施
- ③ 授乳・離乳の支援ガイドを基本とした離乳食
- ④ 給食衛生管理マニュアルに基づいた対応
- ⑤ 食の安全に対する取り組み(有機・無農薬米及び有機・無農薬野菜の使用)

### (4) 保育士等のあり方

相手（子ども・保護者・職員）の理解や受容は決して一方的なものではなく、お互いの心と心の相互的な営みであると考えます。

相手の気持ちを受け止めようと、自分が一人の人間として相手と関わる時、相手は、それを感じ取り、心を開き、自分らしさを表現する。この関係こそが、互いの信頼関係を生み出す基盤となると考える。

- ① 一人一人の子どもを大切に、「自分は愛されている」「大切にされている」思いを育む
  - 一人一人に丁寧に、ゆっくり、ゆったりと接する。
  - 子どもの目線に立ち、子どもの思いをしっかりと受け止め、子どものことばに耳を傾ける。

- 子どもの性差や個人差、個性を肯定し、留意して接する。
- 指示、命令、強制のことばをつかわない。
- 友だち同士で思いや体がぶつかったときは、お互いの気持ちに寄り添いながら、友だちの思いや痛みに気づけるよう、ていねいにかかわるとともに、子どもたちが自分たちで気づくことができるよう見守る。
- 子どもの固有の感性を引き出して豊かに育み、育んだ豊かな感性を保てるよう、子どもの感じ方や考えを積極的に受容する。
- 自分の意図を優先し、子どもに対して、一方的に自分自身の考えを押し付けたり、働きかけたりするのではなく、保育の中心は、子どもが主体であるという認識のもと、子どもの思いを感じ取る

## ② 保護者との関係づくり

- 保護者の家庭状況、家庭環境を十分に理解し、日ごろから子どもの様子を伝えたり、家庭での様子を聞いたりして、保護者の思いを受け止め、信頼関係を築く。
- 子どもの思い、保育士等の思いをしっかりと伝え、現状を理解してもらう。

## ③ 職員の協力体制

- 職員間で情報を共有する。
- 保育園全体をひとつのクラス、または家庭と捉え、担任以外の全ての子どもにも目を向け、一人一人の子どもの状況などについて共通理解できるようにする。
- それぞれの役割を自覚し、責任を果たすとともに、他の職員の立場や状況を十分に理解し、お互いに協力しあい、助け合う。
- 職員それぞれの思いを受け止め、信頼関係を築く。
- クラス内外で積極的にコミュニケーションをとり、子どもにとってより良いかわりを一緒に見出していく。

## ④ 職員の資質向上

- 子どもたち一人一人をしっかりと理解することに務め、気になることなどは、ケース検討会議などの場において、全員で考える。
- 専門性を高めるため、自らの人間性や社会性、専門職としての向上に努め、自己研鑽する。

## ⑤ 子ども目線の環境づくり

- 限られたスペースの中で、子どもたちが自分の空間を見つけ、落ち着いて過ごせる場所づくりをする。
- 「遊・食・寝・」の環境を用意し、子どもたちが心地よく過ごせる場にする。
- 子どもがいつでも休息できる場所を用意しておく。
- 子どもが自由に遊べるよう、また、子ども自身が主体的に遊べるよう、育ちにふさわしい環境、玩具を準備しておく。
- 子どもの感覚を大事にし、子どもが好きな色を選んだり、画用紙なども好きな色が選べるように工夫する。

- 家庭的な雰囲気づくりにつとめる。
- 一時保育、延長保育、土曜日の保育は、特に落ち着いて過ごせるように配慮する。

## 6. 特別保育事業

- (1) 延長保育事業
- (2) 一時保預かり事業

## 7. その他事業

社会福祉施設は福祉サービスを提供するだけでなく、地域の社会資源として、利用者にとっても住民にとっても、地域との関わりを持ちながら暮らすことを支援する「地域の中の施設」でなければならない。そのためには、施設の持つ特性を地域社会へ発揮していくとともに、地域の持つ特性を施設へ活用していく。

### (1) 地域交流、世代間交流事業

- ① 地域読み聞かせボランティア若菜会との交流(年 11 回)
- ② 寺前地区ミニディ参加(年 3 回): 4 歳以上児が在籍の場合

### (2) 幼少連携事業

- ① 寺前小学校児童との交流(未定)
- ② 神河町立幼稚園園児との交流(未定)

### (3) 異文化交流事業

- ① 神河町外国語指導助手との交流(年 3 回)

### (4) ボランティア・就業体験受け入れ事業(キャリア教育推進協力)

※ キャリア教育(文部科学省資料より)…望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育

- ① 保育士養成機関実習生受け入れ(2 名以上)
- ② トライやるウィーク中学生受け入れ(4 名以上)

### (5) 地域子育て支援事業

- ① 園庭開放(週 2 回)
- ② 絵本の貸し出し(週 1 回)
- ③ 懇談スペースの提供(月 1 回)

(6) 子育て相談事業

- ① 子育てアドバイザー来園（月2回）
- ② 懇談スペースの提供（月2回）

(7) 体験型環境学習事業

- ① 動物とのふれあい・飼育体験
- ② 作物の栽培・収穫体験
- ③ 緑のカーテン（植物による壁面緑化）

**8. 職員構成**

職種	正規職員	契約職員
施設長	1名	
主任保育士	1名	
保育士	8名	6名
調理師		1名
管理栄養士		1名
栄養士		1名
嘱託医（非常勤）		1名
嘱託歯科医（非常勤）		1名
計	10名	11名（非常勤2名）

嘱託医 …………… 立岩 誠（立岩医院 神崎郡神河町寺前 33-1 TEL0790-34-0033）

嘱託歯科医 …………… 久保 雅彦（くぼ歯科 神崎郡神河町寺前 219-3 TEL0790-34-0800）

**9. 職務について**

- (1) 施設長は保育所の業務を統括し、総務、人事、経理、会計、管財に関する業務に従事する
- (2) 主任保育士は施設長を補佐し、保育内容について保育士を統括する
- (3) 保育士は保育に従事し、その計画の立案、実施、記録及び家庭連絡等の業務を行う
- (4) 調理師及び栄養士は給食業務管理及び栄養指導等の栄養・給食に関する業務に従事する
- (5) 嘱託医及び嘱託歯科医は、乳幼児の診断治療に当たるとともに、健康管理・保健衛生について助言指導する

## 10. クラス編成（平成 26 年 3 月 20 日現在）：

クラス名	年齢	児童数	常勤保育士数	短時間保育士数
ちゅーりっぷ	0 歳児	1 名	3 名	1 名
	1 歳児	12 名		
すみれ	2 歳児	19 名	3 名	1 名
ひまわり	3 歳児	21 名	2 名	1 名
	4 歳児	0 名		
	5 歳児	0 名		
フリー・一時保育			0 名	3 名
主任			1 名	0 名
計		53 名	9 名	6 名

## 11. 健康管理

- (1) 健康診断  
年 2 回（5 月・11 月）
- (2) 歯科健診及び歯科衛生指導  
年 1 回（6 月）
- (3) 身体測定  
毎月

## 12. 保健衛生管理

- (1) 保健衛生に関する研修を実施し、感染症対応マニュアルの見直しを定期的に行う。  
（年 1 回）

## 13. 安全管理

- (1) 交通安全指導（年 3 回）
- (2) 避難訓練  
非常災害対策訓練年間計画表に沿って実施（毎月）
- (3) 不審者対応訓練  
不審者対応マニュアルに基づいた訓練を実施し、マニュアルの見直しを定期的に行う（年 1 回）
- (4) A E D の設置
- (5) 救急救命講習の実施（年 1 回）

#### 14. 施設管理改修

(1) 施設管理改修等の考え方については以下の優先順位とする

- ① 危険箇所の改修
- ② 安全性の向上
- ③ 環境の改善

#### 15. 苦情処理

(1) 苦情への適切な対応により、保育サービスに対する利用者の満足度を高めると共に、利用者が保育サービスを適切に利用する事が出来るように支援する事と、苦情を密室化せず社会性や客観性を確保し、一定のルールに沿った方法で解決を進めることにより、円滑・円満な解決の促進や当園の信頼と適正性を図る為に苦情解決規程を設けて、お知らせ、ポスター、ホームページなどで周知する

#### 16. 情報公開

(1) よい子ネットの定期更新およびホームページの開設  
実施されているサービス内容や経営内容などの情報について、透明性の確保に努める。

## 17. 行事予定

4月	入園式
5月	内科健診 親子遠足
6月	歯科健診 オープン参観（給食試食会）
7月	七夕会 プール遊び
8月	プール遊び
9月	運動会
10月	お祭りごっこ、屋台ごっこ
11月	芋掘り 焼き芋大会（地域との交流） 内科健診
12月	おたのしみ会 サンタさん来園 サンタ列車（3歳児のみ） お餅つき
1月	とんど 参観日（給食試食会）
2月	豆まき
3月	修了式

月例行事 おたんじょう会

## 18. 研修計画

保育士等には、自分自身の資質の向上を意識し、業務に必要な基本知識や技能を高め、専門性を高める意識を持ち、研修で学んだことを日々の保育活動に生かしていく必要がある。

保育士等に求められる人間性と専門性について、次の3つの視点を挙げる。

### (1) 子どもたちの育ちを援助する力を身に付ける。

保育士等の意図を優先し、子どもたちに対して、一方的に自分自身の考えを押し付けたり、働きかけたりするのではなく、保育の中心は、子どもが主体であるという認識のもと、子どもの思い（心に寄り添うこと）を感じ取ることが大切である。

援助の方法は、子ども一人ひとりの状態や状況によって違う。

常に、その時々保育士等は、子ども自身が自ら、自分の課題を乗り越えていくことの出来るよう、援助を行うことが必要だと考える。

### (2) 保育士等が豊かな人間性を身に付ける。

子どもの理解や受容は決して一方的なものではなく、保育士等の心と子どもの心の相互的な営みであると考え。

子どもの気持ちを受け止めようと、保育士等が一人の人間として、子どもと関わる時、子どもたちは、それを感じ取り、心を開き、自分らしさを表現する。この関係こそが、互いの信頼関係を生み出す基盤となると考える。

### (3) モデルとしての保育士等

保育士等が自覚しなければならないことは、自分の持つ文化や価値観の枠組みを、保育の場において、意図的、または無意識のうちに、子どもに示しているということである。その時、常に保育士等は、この枠組みや価値観を絶対視することなく、いつも柔軟な姿勢で見直し続ける必要があると考える。

子どもに自分の価値観を押し付けるのではなく、子ども自身が主体的に、それを取り入れたり、乗り越えて行けるようにすることが大切だと考える。

これらの視点から、平成26年度は以下の目的による研修を実施する。

#### ① 専門性を高める研修（随時）

（保育に必要な基本的知識及び実践力の向上に繋がる研修と、多様なニーズに対応するための研修）

#### ② 自己課題を解決・達成する研修（随時）

（一人ひとりの子どもの持つ課題に対して、どのように援助を行うのか、資質向上の研修）

#### ③ ライフステージに応じた研修（随時）

（年齢や、経験に応じた立場や役割を認識し、職務を遂行するために資質、指導力の向上を図る研修）

#### ④ カウンセリングマインドを高める研修（随時）

(保護者や、子ども一人ひとりの声に傾聴し、受容し、相互の信頼関係の確立を基本として、相談者の自立を援助するためのカウンセリングマインドを身に付ける研修)

⑤ 保・幼・小の連携を促進する研修(随時)

(それぞれの地域の実情や、子どもたちの実態に応じ、子どもたちを中心に据えた実践研修)

⑥ 子育て支援者としての役割に関する研修(随時)

(子育ての知識、経験、技術を蓄積している保育者が、地域における子育て支援の役割を積極的に担う研修)

⑦ 保育内容検討研修(年7回)

講師：神戸女子短期大学 講師 八木 昌子 氏

## 19. 職員会議

- (1) 定例会議(毎月)

## 20. 委員会活動

- (1) 食育委員会

子どもたちが食べることに興味を示して、みんなで一緒に楽しく給食の時間を過ごせるように取り組む。

- (2) 環境委員会

保育環境の整備、向上とともに、施設内外の設備及び用具等の衛生に注意し、活動する。

- (3) 保健衛生委員会

子どもたち及び職員の安全及び健康の確保のために施設内外の保健的環境の維持及び向上に努める

- (4) おもちゃ委員会

おもちゃで遊ぶことは、子どもたちが成長していくうえで大変、重要な意義をもっていると考え、子どもたちと一緒に、おもちゃで遊んだり、おもちゃを作る楽しみや喜びを伝えていく。

- (5) 絵本委員会

絵本からイメージする力や工夫する力、物事を考える力が「生きる力」につながると考え、保育園以外の子どもたちも利用出来る、貸し出し絵本を行う。

## 21. 福利厚生

- (1) 職員健康診断(年1回)

- (2) 細菌検査(毎月)

(3) インフルエンザ予防接種（11月）

(4) 福祉医療機構退職共済加入

(5) その他会議等で職員からの要望を聞き、要望を反映させていく

## IV このみ保育園

### 1. 運営方針

- (1) 保育所保育指針および神戸の保育計画に基づき、それぞれの子どもの最善の利益を考慮した保育を行う。
- (2) 保護者からの意見・要望などについては実現に努めるとともに、実現の可否に係わらず、その対応について説明を行う。
- (3) 子どもたちが1日の生活の大半を保育所で過ごすことから、安全の確保、健康の保持及び衛生の保持などについて細心の注意を払う。
- (4) 定期的（3年に一度）に第三者評価を受審することで保育の質の向上を図る。
- (5) 関係機関との連携・協力を努める。
- (6) 自治会に加入し、地域の一員として積極的に活動に参加する。
- (7) 保育内容などの情報開示に努める。
- (8) 保育所の運営状況や財務状況を必要に応じて、保護者の方々に説明する。
- (9) 法人として定期的（5年に一度）に外部会計監査を実施することで、より適正な経営管理、財務管理を行い、施設運営の透明性を高める。

### 2. 基本理念

- 一人ひとりの子どもの最善の利益を守り、心身を健やかに育む。
- 子どもが様々な人と出会い、関わり、心を通わせながら成長していくために、乳幼児期にふさわしい生活の場を豊かに作りあげていく。

### 3. 保育目標（家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりの子どもを大切に育てる）

- 心も体も健やかな子ども
- 自分らしさを発揮する子ども
- 相手の気持ちがわかる子ども

#### 4. 保育の基本方針

##### 〈家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりの子どもを大切に育てるための保育〉

- 保育士は常に温かく落ち着いた態度で子どもに接し、子どものあるがままを受け入れる。
- 子どもが安全に安心して過ごせ、また、一人ひとりの発達や興味にあった遊びが豊かに展開できるように保育環境を整え、子どもが自主的に遊ぶ姿を見守る。
- 子ども自身が「愛されている」「認められている」「大切にされている」と感じられるように一人ひとりの子どもに愛情を持って寄り添う。
- 伝承的な行事やわらべ歌遊びを取り入れ日本古来の文化を学ぶ。また、小動物や植物など自然との触れ合いを通して命の大切さや豊かな感性を育てる。
- 乳児は担当制による丁寧な育児を通して、生活習慣の自立を図る。
- 給食は、子どもの成長に即した内容で実施し、心身の健やかな発達を支える。
- 楽しく食べる体験を通して、子どもの食への関心を育み、「食を営む力」の基礎を培う。
- 十分な運動遊び、戸外遊びを通して全身の諸機能の調和的発達を促す。
- 食事、排泄、睡眠、運動など毎日の生活リズムを整え、健康な身体の基礎をつくる。
- 子どもの人格を尊重して保育することで、自分も他者も大切にできる心を育てる。
- 色々な国や地域の文化に触れる経験を通して、違いに気付いたり相手を認めたりする心を育てる。

##### 〈職員としての姿勢〉

- 職員全員が子どもに関わり、よりよい人的環境になるよう心掛ける。
- 一面的な見方ではなく、多方面から見つめ、子どもの理解に努める。
- 年齢ごとに発達を固定的にとらえることなく、個々に合わせた発達を長いスパン(時間の幅)の中でとらえていく。
- 職員間の連携を密にし、チームワークを組んで保育に取り組んでいく。
- 保育について日々研鑽に努め、保育園内外の研修を計画的に実施し、保育技能の向上に努める。
- 専門機関や地域の関係機関と連携し、保育の質の向上を目指す。

- 一人ひとりの保護者の方の状況を踏まえ、信頼関係を築き子育てをすすめる。
- 職員は専門性を活かし、地域の子育て支援に貢献する。
- 保護者の方や子どもの個人情報の取り扱いは適正に行い、在職中はもちろん離職後も、情報の保護、秘密の保持を行う。

#### 〈学校、地域との連携〉

- 地域との交流やボランティアの受け入れは、子どもや職員にとってより豊かな経験となるよう、また、本園が地域の施設として認められるよう、計画性をもって積極的に行う。
- 実習生の受け入れは、次代の保育士育成に欠かせないだけでなく、指導することによって自らの保育を客観視し自己を向上させる機会となるため、計画性を持って積極的に行う。

### 5. 職員構成

職種	正規職員	契約職員
施設長	1名	
主任保育士	1名	
保育士	13名(5月より1名産休・育休)	3名
栄養士	2名	
嘱託医(非常勤)		1名
嘱託歯科医(非常勤)		1名
計	17名	5名(非常勤2名)

嘱託医 林 政清 (林医院 神戸市北区山田町下谷上字池の内2 TEL581-0035)

嘱託歯科医 前田 龍一 (前田歯科医院 神戸市北区山田町下谷上字箕谷 20-1 TEL581-3122)

### 6. 特別保育事業

- (1) 延長保育事業
- (2) 一時預かり事業

### 7. その他事業

社会福祉施設は福祉サービスを提供するだけでなく、地域の社会資源として、利用者にとっても住民にとっても、地域との関わりを持ちながら暮らすことを支援する「地域の中の施設」でなければならない。そのためには、施設の持つ特性を地域社会へ発揮していくとともに、地域の持つ特性を施設へ活用していく。

- (1) 地域交流、世代間交流事業

- (2) 幼少連携事業
- (3) 異文化交流事業
- (4) ボランティア・就業体験受け入れ事業（キャリア教育推進協力）
- (5) 地域子育て支援事業
- (6) 子育て相談事業
- (7) 体験型環境学習事業

## 8. 職務について

- (1) 施設長は保育所の業務を統括し、総務、人事、経理、会計、管財に関する業務に従事する。
- (2) 主任保育士は施設長を補佐し、保育内容について保育士を統括する。
- (3) 保育士は保育に従事し、その計画の立案、実施、記録及び家庭連絡等の業務を行う。
- (4) 調理師及び栄養士は給食業務管理及び栄養指導等の栄養・給食に関する業務に従事する。
- (5) 嘱託医及び嘱託歯科医は、乳幼児の診断治療に当たるとともに、健康管理・保健衛生について助言指導する。

## 9. クラス編成（平成 26 年 3 月 20 日現在）

クラス名	年齢	児童数	常勤保育士数	短時間保育士数
さくらんぼ	0 歳児	6 名	2 名	
もも	1 歳児	12 名	2 名	
ぶどう	2 歳児	20 名	3 名	
みかん りんご	3 歳児	14 名	3 名	
	4 歳児	13 名		
	5 歳児	5 名		
どんぐり	一時保育		3 名	2 名
主任			1 名	
計		70 名	14 名	2 名

## 10. 休園日

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日・年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）

## 11. 保育時間

- (1) 延長保育 7:00～7:30
- (2) 特例保育 7:30～8:00
- (3) 通常保育 8:00～17:30
- (4) 特例保育 17:30～18:00
- (5) 延長保育 18:00～19:00

## 12. デイリープログラム

3歳児未満の一日	時刻	3歳児以上児の一日
順次登園	7:00	順次登園
持ち物の整理		持ち物の整理
コーナー遊びなど好きな遊び (異年齢児と遊ぶ)		コーナー遊びなど好きな遊び (異年齢児と遊ぶ)
おやつ (0歳児午前睡)	9:00	同年齢児と遊ぶ (年齢や季節に応じた遊び)
遊び(年齢季節に応じた遊び)		
食事	11:00	
	11:30	食事
昼寝	12:00	
	13:00	昼寝
目覚め	15:00	目覚め
おやつ		おやつ
外遊び、コーナー遊びなど好きな遊び	15:30	外遊び、コーナー遊びなど好きな遊び
順次降園		順次降園
延長保育 夕間食	18:00	延長保育 夕間食
全員降園	19:00	全員降園

### 13. 行事

4月	入園式
5月	
6月	プラネタリウム観賞(4歳児以上)
7月	七夕まつり(1歳児以上) プール開き
8月	夏祭り(1歳児以上)
9月	
10月	★運動会(2歳児以上) 芋掘り遠足(3歳児以上)
11月	遠足(3歳児以上) ★保育参観
12月	クリスマス会(1歳児以上) ★たのしいつどい(2歳児以上)
1月	もちつき(1歳児以上)
2月	豆まき(1歳児以上)
3月	ひなまつり(1歳児以上) お別れ遠足(3歳児以上) ★卒園式(3歳児以上)

★印は保護者参加行事

月例行事 お楽しみ会・身体測定・安全の日(避難訓練)

#### 14. 給食に対する取組

- (1) 年間食育計画に基づいた取組の実施
- (2) アレルギー対応の実施
- (3) 授乳・離乳の支援ガイドを基本とした離乳食
- (4) 給食衛生管理マニュアルに基づいた対応
- (5) 食の安全に対する取り組みの実施

#### 15. 健康管理

- (1) 内科健診（年2回）
- (2) 歯科健診（年2回）
- (3) 眼科検診（年1回 4・5歳児対象）
- (4) 耳鼻科健診（年1回 4・5歳児対象）
- (5) 尿検査（年1回）
- (6) ぎょう虫検査（年2回）
- (7) フッ化物先口4・5歳児の希望者を対象に5月から週2回実施（無料）
- (8) 身体測定（毎月）

#### 16. 安全管理

- (1) 交通安全指導（年1回）
- (2) 避難訓練  
非常災害対策訓練年間計画表に沿って実施（毎月）
- (3) 不審者対応  
出入り口の限定、オートロックによる施錠の実施  
不審者対応訓練実施（年1回）
- (4) AEDの設置
- (5) 救急救命講習の実施（年1回）

## 17. 送迎について

- (1) 保育所南側の箕谷モータープールに保護者送迎用の駐車場を6台分確保しているが、場所が集約されていないため、保育園玄関周辺に空きが出来れば順次、駐車場を移して場所の集約を図る。
- (2) 朝7:00~10:00及び夕方16:00~19:00の間、保育所北側及び保育所南側の駐車場に交通安全の立当番を配置し、園児及び保護者、通行人の安全確保及び保育所種変道路の交通整理に努める。

## 18. 苦情対応

- (2) 苦情への適切な対応により、保育サービスに対する利用者の満足度を高めると共に、利用者が保育サービスを適切に利用できるよう支援する事と、苦情を密室化せず社会性や客観性を確保し、一定のルールに沿った方法で解決を進めることにより、円滑・円満な解決の促進や当園の信頼と適正性を図る為に苦情解決規程を設けて、お知らせ、ポスター、ホームページなどで周知する。

## 19. 情報公開

- (2) よい子ネットの定期更新およびホームページの開設により、実施されているサービス内容や経営内容などの情報について、透明性の確保に努める。

## 20. 研修計画

保育士等には、自分自身の資質の向上を意識し、業務に必要な基本知識や技能を高め、専門性を高める意識を持ち、研修で学んだことを日々の保育活動に生かしていく必要がある。

保育士等に求められる人間性と専門性について、次の3つの視点を挙げる。

- (1) 子どもたちの育ちを援助する力を身に付ける。

保育士等の意図を優先し、子どもたちに対して、一方的に自分自身の考えを押し付けたり、働きかけたりするのではなく、保育の中心は、子どもが主体であるという認識のもと、子どもの思い（心に寄り添うこと）を感じ取ることが大切である。援助の方法は、子ども一人ひとりの状態や状況によって違う。常に、その時々保育士等は、子ども自身が自ら、自分の課題を乗り越えていくことの出来るよう、援助を行うことが必要だと考える。

- (2) 保育士等が豊かな人間性を身に付ける。

子どもの理解や受容は決して一方的なものではなく、保育士等の心と子どもの心の相互的な営みであると考え。

子どもの気持ちを受け止めようと、保育士等が一人の人間として、子どもと関わる時、子どもたちは、それを感じ取り、心を開き、自分らしさを表現する。この関係こそが、互いの信頼関係を生み出す基盤となると考える。

### (3) モデルとしての保育士等

保育士等が自覚しなければならないことは、自分の持つ文化や価値観の枠組みを、保育の場において、意図的、または無意識のうちに、子どもに示しているということである。その時、常に保育士等は、この枠組みや価値観を絶対視することなく、いつも柔軟な姿勢で見直し続ける必要があると考える。子どもに自分の価値観を押し付けるのではなく、子ども自身が主体的に、それを取り入れたり、乗り越えて行けるようにすることが大切だと考える。

これらの視点から、平成 26 年度は以下の目的による研修を実施する。

- ① 専門性を高める研修（随時）  
（保育に必要な基本的知識及び実践力の向上に繋がる研修と、多様なニーズに対応するための研修）
- ② 自己課題を解決・達成する研修（随時）  
（一人ひとりの子どもの持つ課題に対して、どのように援助を行うのか、資質向上の研修）
- ③ ライフステージに応じた研修（随時）  
（年齢や、経験に応じた立場や役割を認識し、職務を遂行するために資質、指導力の向上を図る研修）
- ④ カウンセリングマインドを高める研修（随時）  
（保護者や、子ども一人ひとりの声に傾聴し、受容し、相互の信頼関係の確立を基本として、相談者の自立を援助するためのカウンセリングマインドを身に付ける研修）
- ⑤ 保・幼・小の連携を促進する研修（随時）  
（それぞれの地域の実情や、子どもたちの実態に応じ、子どもたちを中心に据えた実践研修）
- ⑥ 子育て支援者としての役割に関する研修（随時）  
（子育ての知識、経験、を蓄積している保育者が、地域における子育て支援の役割を積極的に担う研修）
- ⑦ 保育内容検討研修（年 7 回）  
講師：神戸女子短期大学 講師 八木 昌子 氏

## 21. 職員会議

- (1) 定例会議（毎月）

## 22. 福利厚生

- (1) 職員健康診断（年 1 回）
- (2) 細菌検査（毎月）

- (3) インフルエンザ予防接種（11月）
- (4) 福祉医療機構退職共済加入
- (5) その他会議等で職員からの要望を聞き、要望を反映させていく

**※本計画書の取り扱いかた**

本書について外部への持ち出しを固く禁ずる。